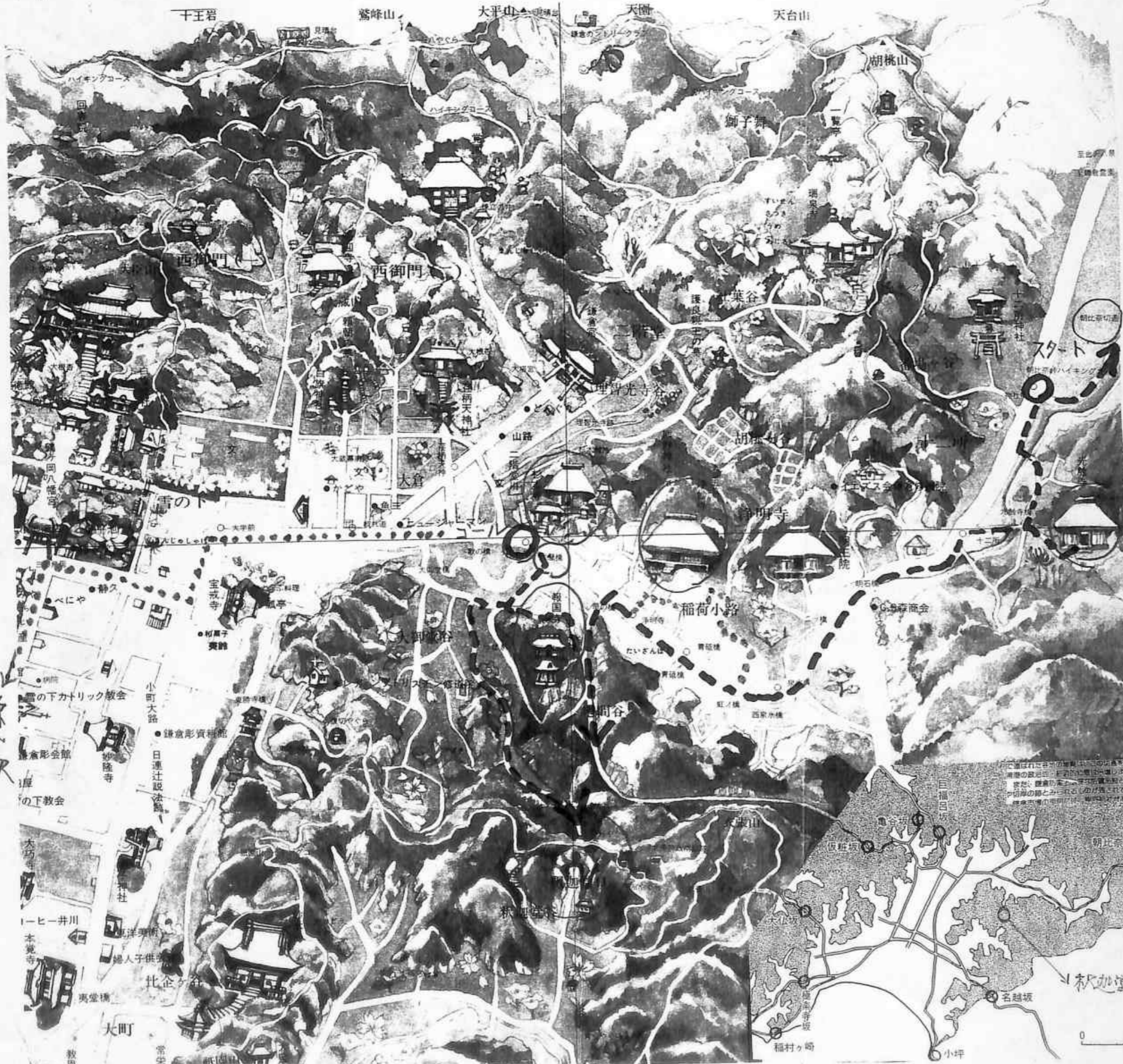


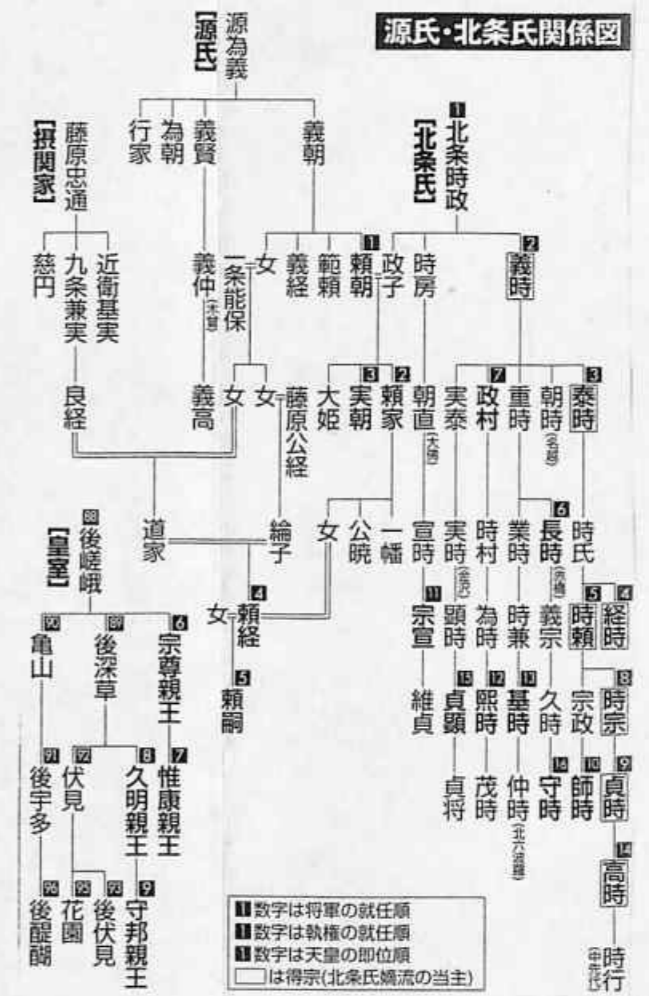
鎌倉(城)の六浦路×杖起堂口を歩く

平成19-4-19 城を歩く会



乙

源氏・北条氏関係図



■数字は將軍の就任順  
■数字は執權の就任順  
■数字は天皇の即位順  
□は得宗(北条氏嫡流の当主)



此處切寺北朝



杖起堂口

<日時> 平成19年4月19日(木曜日=予備日26日)

<集合> JR鎌倉駅東口(鶴が岡八幡宮側)改札前10時集合  
 <移動> 路線バス⑤番乗り場鎌倉霊園行き10時07分発で10分200円、十二所神社降車  
 <主要行程> 朝比奈切通し(遠望)、太刀洗、千葉広常邸跡、光触寺(トイレ)、  
 鎌倉公方跡、旧華頂宮邸庭園(昼食=近くに食堂はありません)  
 報国寺(竹寺=有料)、上杉犬懸邸跡、釈迦堂口、杉本寺バス停(16時ころ解散)  
 <帰路> 徒歩またはバス(10分190円)で鎌倉駅へ

山岸弘明

1) はじめに — 鎌倉と地名のいわれ

- ① 鎌倉=南を相模湾、三方を山に囲まれた直径4キロほどの天然の要害。12世紀末、源氏再興に立ち上がった源頼朝が鎌倉に幕府を開き、わが国最初の武家政治の本拠地となった。続く室町時代も鎌倉公方が置かれ関東の中心地に。市内に残る切通しや寺社が中世の息吹を伝えている。地名の起こりに諸説、地形が有力という。古くは小町、大町、材木座一帯を呼んだ。
- ② 鎌倉7口(切通し)=切通しは山を切り開いて作った道をいう。鎌倉(城)は山に囲まれていたので出入りは切通しを通らなければならなかった。名越(なごえ)、朝比奈、巨福呂(こぶくろ)、亀が谷(かめがやつ)、化粧(けわい)、大仏坂、極楽寺坂を7口というが、釈迦堂口を含めて8口と称することもある。敵の攻撃から鎌倉城を守る外郭の役割を果たした。
- ③ 金沢街道、六浦(むつら)路=金沢、六浦への道、海上上総、安房へ通じた。金沢ははじめかねさわと読んだが由来は不詳、六浦は袋形に入組んだ浦ふくらが転化という。

2) 朝比(夷)奈切り通し (国指定史跡、別名六浦道、峠坂=遠望)

- ① 朝比奈切り通し=7口の一つで鎌倉と六浦(横浜市金沢区)を結ぶ。六浦地区の塩や海産物など生活物資を運んだ。また、安房、上総への鎌倉街道でもあった。
- ② 通説は仁治2年(1241)、3代執権北条泰時が着工、工期1年間で完成したとする。しかし、当時すでに存在した六浦道の拡張工事だったという説も有力である。
- ③ 朝比奈の名は豪勇として知られた朝比奈三郎義秀が一夜にして切り開いたという伝説に因んでいる。
- ④ 7口の多くは大きく改変されたが、旧状を色濃く残す。山越えは急坂、鎌倉側下り坂は野趣溢れるが
- ⑤ 「鎌倉切り通し中もっとも高く、もっとも要害堅固。切り通し上方は広い平場であり、前面は段々畑、道の北側を通る尾根から道に面しては、幾段にも平場になった畑がある。その平場の構造は城郭として敵の攻撃に抵抗できる状態のもので、明らかに城郭としての構造と考えられる」(鎌倉市史旧版)後段の切り通し前面の段々畑は鎌倉霊園周辺。旧道は霊園を迂回したが周辺の開発で破壊された。
- ⑥ 今回は残念ながら朝比奈切り通し手前からの遠望のみ。
- ⑦ 切り通しへの道すがら岩山を切り開いた切岸と密集するやぐら群などから切り通し道を想定する。今回のテーマは鎌倉を城郭としてみる。やぐらもオンパレードです。



スタート9鎌倉駅

世界遺産の名乗り上げ  
朝比奈切通し ↓ →



3) 千葉広常邸跡と梶原太刀洗水 (十二所)

- ① 太刀洗=寿永2年(1183)、頼朝の命令を受けた梶原景時が千葉広常邸を襲って殺害、血濡れた太刀を洗ったという伝説の池。
- ② 梶原景時は頼朝の腹臣で侍所所司などを勤めた。源義経、畠山重忠らの中傷したが、三浦一族の反感をかって最後に暗殺された。近くの明王院左奥の谷戸が梶原景時邸跡、時間許せば居館跡をさぐる。
- ③ 千葉上総権介広常=平安時代から中世初頭にかけての豪族。頼朝が石橋山の戦いに敗れて房総にあって時、2万の軍勢を率いて麾下に加わった。頼朝の鎌倉幕府設立の大功労者であったが、態度が不遜などの理由で疎まれ、謀叛の疑いをかけられて暗殺された。
- ④ 「太平記」などは広常の死後、生前上総一宮の玉前神社に奉納された鎧に「頼朝の武運と東国安泰」の祈願があったことが判り頼朝が謀殺を後悔したとする。
- ⑤ 千葉広常邸跡=朝比奈切通し鎌倉側の谷戸。3~4段の台地(曲輪)からなる。内部は土建会社の資材置場で立ち入りはできない。外から地形を確認。

4) 光触(こうそく)寺 (十二所=トイレ休憩)

- ① 時宗、岩蔵山。13世紀弘安2年(1279)一遍上人が開く。境内に上人像。
- ② 本堂は元禄年間(一説安政6年)建造。国重要文化財の「阿弥陀三尊立像」は別名頬焼阿弥陀といい寺伝は運慶作。本尊にまつわる「頬焼阿弥陀縁起絵巻」も重文だが非公開。
- ③ 塩なめ地蔵=石造地蔵菩薩立像。金沢街道の辻堂から移設。鎌倉への塩売り行商が初穂の塩を供えたと帰りはなくなったという。地蔵がなめたという伝説に由来。

5) 鎌倉公方(府)跡 (浄明寺)

- ① 源頼朝の重臣で遠い血のつながりもある足利義兼以来鎌倉、室町時代250年間の足利氏邸跡。実は足利幕府鎌倉公方(府)跡。
- ② 鎌倉幕府に反旗を立てて倒幕に成功した足利尊氏は京都で室町幕府を興す。尊氏は長男義詮を2代将軍に据え、4男基氏を鎌倉幕府の旧地・鎌倉に置いて鎌倉公方(府)とした。通称鎌倉将軍で関東10か国(後奥羽2か国を追加)を分割統治した。
- ③ 鎌倉公方は基氏の子孫が継承、氏満、満兼と続く。2元政治がうまく行くのは始めだけ。やがて将軍家と鎌倉公方は対立、4代持氏が京都の将軍家と戦って敗死、成氏の時鎌倉を逃れて古河公方を称した。関東は古河公方と将軍方上杉管領の2勢力に分断、全国に先がけて戦国時代が始まる。
- ④ 明王院と浄妙寺の間、浄明寺4丁目奥の谷戸地帯が鎌倉府跡で、敷地面積東西300、南北100m、9間6間の寝殿に対屋(たいや)、侍部屋が付いた。発掘調査で確認された庭園や岩風呂跡などに触れる。時間許せばやぐら群へ。巨大やぐらはどんな使われ方をしたのだろうか。
- ⑤ 路傍に碑(いしぶみ)が1基、足利氏が頼朝から拝領し、関東の騒乱で去るまでの経緯を刻んでいる。



太刀洗 ↑ 梶原景時邸跡 ↓



光触寺



足利公方跡碑 ↑



塩なめ地蔵



← 明王院

6) 浄妙寺 (浄明寺=遠望)

- ① 真言宗→臨濟宗。稲荷山。12世紀文治4年(1188)足利氏の祖、義康の子義兼が建立。中興開基は足利尊氏の父貞氏。寺号は貞氏の法名浄妙院殿から。巨大な宝きょう印塔がある。
- ② 足利氏の菩提寺として発展、鎌倉五山の第5位とされた。このころが最盛期で七堂伽藍に塔頭23を数えたが、幕府の衰退と数度におよぶ火災で衰えた。
- ③ 江戸中期宝暦6年再建の仏殿は銅板葺き、庫裏、総門、宝蔵庫も江戸時代の造りで趣がある。また、四季の花々、茶室、喜泉庵庭園も見どころだがここも遠望だけ。

7) 旧華頂宮邸庭園 (昼食)

- ① 華頂宮は伏見宮邦家親王の12男博経を初代とする旧伯爵家。持ち主は変遷、現在は鎌倉市が所有して庭園部分のみ月、火曜を除いて一般公開。手入れが行き届いて美しい。
- ② 建物は昭和4年建造の近代洋風住宅建築、1階は石、レンガ造り、2階は木造のハーフティレバースタイル。残念ながら内部は公開していない。
- ③ 建物をながめながら持参の弁当を楽しむ。

8) 報国寺 (宅間寺、竹寺=浄明寺)

- ① 臨濟宗。功臣山。14世紀建武元年(1334)足利尊氏祖父の建立。鎌倉公方4代持氏の時、京都の将軍家と対立して敗れる。持氏は永安(えいあん)寺で、嫡子の義久も報国寺で自害、仏殿に眠る。
- ② 江戸時代の建物は明治時代に焼失。現堂宇は再建。寺宝の鎌倉時代掛軸、文書など4点が国の重要文化財に指定されている。
- ③ 山門から本堂までは石庭を配した参道。本堂裏手に美しい竹林の庭があり、竹寺として名高い。鐘楼傍らに義久の墓、裏山にも一族のやぐらがある。

あしかがくがぼくはていききゆうせき  
 (碑) 足利公方邸旧蹟  
 頼朝開府ノ初メ足利義兼居ラ此ノ地ニトシテ以来、二百数十年間子孫相嗣イデ此ニ住ス。尊氏覇ヲ握リテ京都ニ遷ルノ後、其ノ子義隆、二代将軍トナリテ京都ノ邸ヲ嗣ギ、義隆ノ弟基氏関東管領トナリテ、兵馬ノ權ヲ此ノ邸ニ執ル。而シテ之ヲ子孫ニ伝フ。子孫京都ニ比擬シテ公方ト稱ス。享徳四年公方成氏、執事上杉憲忠トノ不和ノ事ヨリ下総古河ニ遷ルニ及ビテ遂ニ永ク廢墟トナル。  
 大正九年三月建之 鎌倉青年会



足利公方邸庭園  
 ← 岩風呂跡  
 ↓ ヤバウ砦  
 浄妙寺 ↓



9) 田楽 (でんがく) 辻子 (ずし) (浄明寺)

- ① 鎌倉時代、田楽法師たちが居住した町。鎌倉末期、北条高時は田楽、鬨犬に明け暮れたという。

10) 滑 (なめり) 川と犬懸 (いぬかけ) 橋 (二階堂)

- ① 滑川=切り通しの太刀洗川と二階堂の谷水を集めて由比が浜にそそぐ鎌倉最大の川。全長7キロ。
- ② 犬懸谷(やつ)=釈迦堂一帯の谷戸。地名は狩のとき犬が駆け回ったことによる。
- ③ 室町前期、関東管領上杉犬懸禅秀邸。応永22年(1415)この地で「禅秀の乱」が起こる。4代鎌倉公方持氏は当時18歳の若さで、なにかと小うるさい管領禅秀を半ば強制的に辞任させて同年代の山内上杉憲基を後任に据えたところ、禅秀は夜陰に紛れて鎌倉御所を急襲した。持氏は命からがら上杉憲基邸に脱出。鎌倉府は2分、はじめは犬懸軍が圧倒、持氏は一時鎌倉を退去するが、幕府の援軍が到着すると犬懸軍は次々と寝返り、禅秀らは鶴が岡八幡宮近くの雪下御坊で自害した。

11) 感動の釈迦堂口切通し (浄明寺)

- ① 釈迦堂跡=3代執権泰時が父義時菩提のため建立した釈迦堂で、室町中期に焼失した。
- ② 釈迦堂口=本日最大の見どころ。見る人を感動させる虎口の芸術、切り通しを見ずに鎌倉は語れない。7口に準ずる切り通しで8口ともいう。鎌倉時代の切通し遺跡をもっともよく残している。杉木立の奥にぽっかり口を開ける巨大な素掘りトンネルは圧巻。迫力と美しさは入口からもよく窺える。危険のためご案内はトンネル前まで。反対側をみたい方は自己責任でどうぞ。
- ③ 苔むした岩肌を断層がくっきり。中段にやぐら。鎌倉のやぐらを墓所とみる人も多いが、矢倉の変で櫓と同根。やぐら高さは開発の歴史を示している。



田楽辻子 ←



足利義久の自害(報国寺)



← 倉倉の ↓  
 旧華頂宮邸跡

犬懸戦争 ↓ 報国寺 ↑



1 2) 杉本寺 (解散後自由見学=二階堂)

- ① 天台宗。大蔵山。8世紀天平2年(730)行基開創、慈覚大師中興開山と伝わる鎌倉最古の名刹。
- ② 苔むした石段の参道と白い幟旗が出迎える。板東三十三観音霊場一番札所として多くの巡礼者を集めている。
- ③ 本堂の観音堂は茅葺き、寄棟5間堂。江戸中期延宝6年(1678)の再建で、内外陣に分かれた中世密教本堂形式で珍しい。本堂右前に中世五輪塔が並ぶ。600年前の応永も読める。
- ④ 同じ茅葺きの仁王門は江戸中期享保年間、金剛力士像も同年代だが運慶作とも。
- ⑤ 背後の山は三浦氏の支城、杉本城跡だが立入りできない。南北朝時代に城主斯波家長が北畠顕俊に攻められ、この寺で自害した。

1 3) 杉本寺バス停留所 (解散)

- ① 鎌倉駅までバス10分(道路混雑度により異なる)190円
- ② 元気組は鎌倉駅までおよそ45~60分、寺々をめぐるながらの散策も楽しい。よろしかったら一緒にどうぞ。

杉本寺→大蔵御所跡(源頼朝、政子邸=鎌倉城本丸)→頼朝の墓→宝戒寺(北条執権邸跡)→東勝寺跡高時腹切りやぐら(北条一門終焉の地)→若宮御所跡(最後の御所)→段かざら→小町通り→鎌倉駅

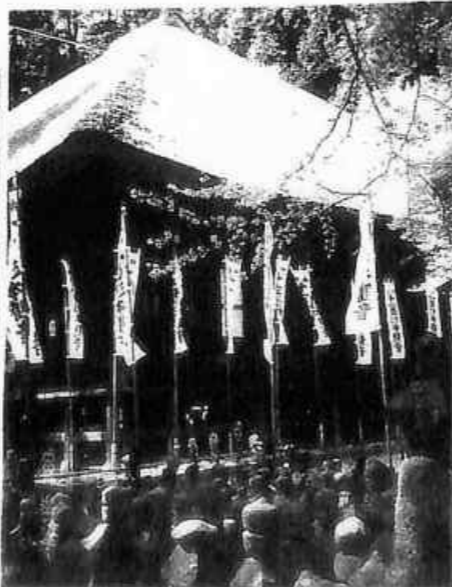
以上



杯迎道口



杉本寺



釈迦堂切通し

時代の面影を伝える壮大な洞門  
かつての名越への主要道  
滑川を渡って住宅街を抜けると、突然現れる岩の洞門。荒々しく壮大なそのさまは、鎌倉切通しのなかでも最も趣が深い。釈迦堂の名は元仁元年(1224)、3代執権北条泰時が、ここに父義時の菩提を弔う釈迦堂を建てたことに由来する。



解散いも  
またもつたつたつ  
元気組は鎌倉駅まで  
3kmほど歩こう



宝戒寺

周辺はかつて執権を務めた北条氏の屋敷だったといわれる。建武2年(1335)、滅亡した北条氏の霊を弔うため、後醍醐天皇が足利尊氏に命じてこの地に寺を建立させた。境内には太子堂や得宗権現社などがあり、正面の本堂には本尊地藏菩薩坐像が安置されている。秋の寺として有名で、9月中旬になると本堂に続く石畳はシラハギの花で埋めつくされる。



頼朝の墓



若宮大路幕府跡の碑

段かざら



段葛

八幡宮に続く若宮大路中央の石を積み上げた参道。別名「置石」ともいわれる。寿永元年(1182)に源頼朝が妻政子の産を折願して、北条時政子に命じて造らせた。かつては、一ノ鳥居から三ノ鳥居まであったが横須賀線の開通などにより明治時代に取り壊され、現在は二ノ鳥居から三ノ鳥居までの約500メートルが残っている。春にはサクラやツツジが参道の両脇を覆う。

東勝寺

臨済宗、関東十刹の一つ。葛西ヶ谷に位置し、嘉禎三年(一二三三)北条泰時が母の追善に建立。開山は源頼朝や政子にも信任された退耕行勇。東勝寺橋の東方一帯が境内で、幕府滅亡時に千余人が自刃したことから、その広大さがわかる。足利政氏が一度再興したが、元龜四年(一五七三)廃寺になったようだ。



緑深い東勝寺橋



昼でも薄暗い腹切りやぐら

東勝寺旧蹟

元弘三年五月 新田義貞鎌倉二乱入スルヤ、高時、小町ノ邸ヲ後ニ父祖累世ノ墓所東勝寺ニ龍リ百五十年來殿殿ヲ極メシ府下邸第肆ノ今ヤ一面ニ燼ノ跡ノ淵ル所トナルヲ望見シツツ一族門葉八百七十人ト共ニ自刃ス。其ノ北条執権史終局ノ惨劇タル一駒ハ実ニ此地ニ於テ演ゼラレタルナリ。大正七年三月建之 鎌倉町青年会



小町通り